

【359】

氏 名 (本籍)	まつばら ゆういち (大 阪 府)		
学 位 の 種 類	博 士 (スポーツ医学)		
学 位 記 番 号	博 甲 第 5510 号		
学位授与年月日	平成 22 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科		
学 位 論 文 題 目	鍼刺激が運動に伴う免疫応答に及ぼす影響		
主 査	筑波大学教授	博士 (医学)	宮 川 俊 平
副 査	筑波大学教授	医学博士	河 野 一 郎
副 査	筑波大学准教授		宮 本 俊 和
副 査	東京大学講師	博士 (医学)	秋 本 崇 之

論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的)

運動による免疫機能の低下に対する鍼刺激の有効性を明らかにするために以下の研究課題を設定した。

課題 1：鍼刺激が一過性高強度運動による口腔粘膜免疫能の応答に及ぼす影響

課題 2：鍼刺激が一過性高強度運動による全身免疫能の応答に及ぼす影響

課題 3：鍼刺激が合宿期間中の口腔粘膜免疫能の応答に及ぼす影響

(対象と方法)

課題 1・2 では日頃定期的に高強度のスポーツ活動を行っていない成人男性を対象とした。運動前後で唾液中の分泌型 (S) IgA、血液中の好中球やリンパ球の動態を鍼刺激あり群となし群で比較検討した。課題 3 では、成人サッカー選手の合宿時に、鍼群と鍼なし群とに分けて鍼刺激の効果を SIgA で検討した。

(結果)

課題 1 では鍼刺激は高強度運動によって低下する SIgA レベルを増加させる可能性が、研究課題 2 では鍼刺激は高強度運動による好中球の増加を軽減し、元のレベルへの回復も促進する可能性が、課題 3 では鍼刺激は合宿期間中の SIgA を増加させ、風邪徴候の発生を少なくする可能性が認められた。

(考察)

鍼刺激は高強度運動によって低下する粘膜免疫能の回復を促進し、粘膜免疫能を高める可能性が考えられ、高強度運動によって変動する好中球、リンパ球、Th 細胞を改善することにより、全身免疫を調整する可能性が考えられた。結論として、鍼刺激は免疫機能を調整することにより、上気道感染症を予防し、スポーツ選手の良好なコンディション維持に寄与する可能性が示唆された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、人の免疫の機能における鍼の効果を科学的な手法で解明しようとしたもので、他にはみない研究である。研究デザイン、対象・方法・結果そして考察ともに科学的な根拠に基づいており価値の高いもの

となっている。

よって、著者は博士（スポーツ医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。